

きもの豆知識

半幅帯を楽しむ

半幅帯は、ゆかたに合わせてと思われることが多いですが、結び方や小物との合わせ方で、四季を通して一年中様々な場面で活躍します。



着心地、楽々！

←帯が下がらないように、お太鼓部分は、帯揚げで固定します。このように名古屋帯などのお太鼓で利用する帯枕を使わないので、みぞおちが圧迫されず、とても楽な着心地。



合わせても良い着物

小紋、紬、お召し、木綿、色無地（紋が付いていない）、ゆかたと、礼装以外の着物に幅広くお使いいただけます。

前結びでスピーディーに綺麗に！

自分の目の前で確認しながら、前結びが出来て、形も整えられるので、きれいに手早く仕上がります。前結び用の前板（まわりっ子）を使えば、後ろに回すときの着崩れもなくなります。



まわりっ子

後ろ側もサテン素材でできているので、前で結んで後ろに簡単にまわせます。



通常価格
S, M, L 5,500円 L L 6,000円

小物を使ってきちんと

前帯の幅は、名古屋帯などと同じなので、帯締めや帯揚げを使えば、きちんとした着姿が出来上がります。

歌舞伎のススメ

～歌舞伎のはじまり～

歌舞伎の始まりは江戸時代に出雲阿国（いずものおくに）が踊った煽情的な舞台。圧倒的な人気となり、この『かぶき踊り』が歌舞伎の原点といわれています。出雲阿国は出雲大社の巫女という触れ込みでしたが、実際は諸国を放浪して歩く遊女で、スキャンダラスな出し物をする

ていきます。あまりに享樂的な内容から幕府は社会風俗を乱すものとして『女歌舞伎』『遊女歌舞伎』を禁止してしまいます。

女歌舞伎、遊女歌舞伎にかわって表れたのが元服前の前髪を垂らした美少年たちによって演じられる『若衆歌舞伎（わかしゅうかぶき）』。舞踏中心ではなく狂言をわかりやすくした出し物がメインとなり人気を博していきます。しかし、これも男色の流行を助長するとして禁止されます。

そこで始まったのが『野郎歌舞伎（やろうかぶき）』。舞台上に登場するのは成人男子だけで、さらに能狂言に準じる『狂言づくし』にすることで上演の許可がされます。まさに、現代の歌舞伎の原型です。このような制限の中で上演された歌舞伎は、以前にはなかった、ストーリーが練りこまれた多幕ものの芝居が作られるようになり、演劇としての質が向上して行くのでした。それにしても、歌舞伎のはじまりが女性のスキャンダラスな踊りだったなんて今からでは想像できませんね。



かわちやの

着付教室 12回

1回1000円

かわちやの着付け教室ではそれぞれの目的やスケジュールにあわせたカリキュラムを組んでいきます。

お気軽にご相談ください。

お問い合わせは

TEL 0563-35-0039 大橋幸子まで



着物でお出掛け倶楽部

『夏の美術館』の旅

豊田市美術館にて

『ジブリの立体建造物展』を鑑賞

日時 7月27日(水)

会費 5000円

着物クリーニング

何でも 汚れの種類や程度によって追加料金がかかる場合がございます。

2点7,560円

着たあとのお手入れは大切！

草木染講習会

日時 7月20日(水)

会費 1,000円+材料費

用意するもの：厚手のゴム手袋、エプロン



はかない印象の『月見草』。今回はこの花で染めます。さて、どんな色に染まるのでしょうか？

草履・下駄はありますか？

履物の調整

1足500円



イベント案内

訪問着と色無地展

7月22日(金)～25日(月)

訪問着・色無地・袋帯・名古屋帯